

第 11 回 糸賀一雄記念未来賞受賞者・団体紹介

石川 恒 氏(栃木県那須塩原市)



■略歴

1982年 日本社会事業大学卒業後、社会福祉法人紫野の会 障害者支援施設「かりいほ」に入職。

2000年 「かりいほ」の施設長に就任、2019年までの19年間、施設の舵取りを担う。

※「かりいほ」は、中軽度の知的障害者で、人間関係のトラブルや刑事事件に巻き込まれ、地域社会で暮らすことに生きにくさを抱えた人の社会的自立を支援する入所施設。

2016年 一般社団法人生きにくさを抱えた障害者等の支援者ネットワークの代表理事に就任。

現在は、更生保護法人 尚徳有隣会 職員

■活動内容

- ・罪を犯した障害者など生きにくさを抱えた人たちの支援の先駆者として、「かりいほ」入所者の社会的自立支援の実践活動を牽引してきた。
- ・「かりいほ」での実践を踏まえた考察により、全国に設置されることとなる地域生活定着支援センターの枠組みづくりや、支援を担う人材育成のための研修の開催など、支援のための基盤づくりに尽力してきた。
- ・「かりいほ」施設長退任後も、栃木県内の更生保護施設で矯正施設等を出所した人の更生に向けた支援を現場で担っている。

司法に関わる知的障害者の問題にパイオニアとして取り組まれており、その取り組みは糸賀氏の心を受け継いだものとなっていることから、今後ますますの活躍が望まれるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。